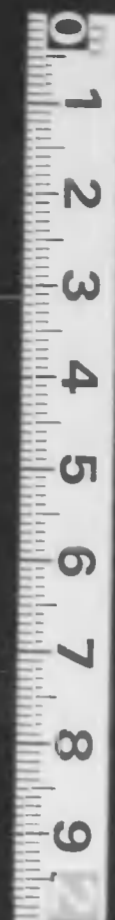


寫眞週報

編輯部情報閣内
ンセ十・號三卅第・日八廿月九

昭和十三年九月八日發行（普通）四月八日發行（普通）四月八日發行（普通）四月八日發行（普通）

銃後後援強化週間





此の薬は、腸内の細菌を殺し、
 腸の機能を正常にする。その
 結果、腸の蠕動が活発になり、
 消化が促進される。また、腸
 内の毒素を排出し、健康を
 回復させる。この薬は、小児
 の腸病に特に有効である。

腸疾患にビオフェルミン

乳酸菌療法剤

乳児、小児の下痢
 症即ち換便、水様
 便、粘液便等のみ
 ならず食欲不振、
 栄養障害、發熱等
 の消化器疾患に對
 しビオフェルミン
 は服用容易にして
 安全無害、副作用
 を伴はずして治療
 と共に中毒を防ぐ



腸カタル、消化不良
 食傷、下痢、鼓腸
 乳小児の消化不良症
 下痢、緑便、腹痛に

傳染性腸疾患
 豫防と保健に



大塚製薬株式会社
 東京市中央区本町二丁目

銃後後援強化週間

十月五日から
十月十日まで

この度、十月五日から一週間、銃後後援強化週間を官民協働で行ふことになつた。その間銃後後援に對する國民の認識を深め、特に戦死軍人の功を偲び傷痍軍人及び出征軍人等に對する感謝の念を昂め、以て國民各層の日常生活を通じてその精神化をはかり、あはせて、戦死の完結を期さうといふのである。

國民の間には、漢口攻時をもつて、支那事變はその最高潮に達し、戦争も一段落つつかの如く考へてゐる人も無いではない。然し、度々當局がいろいろな機会において言明してゐるやうに、大陸に新時代を呼ぶ戦ひは、決して、これで終るのではない。内外のあらゆる意味の戦ひは、これからであり、その戦ひの姿は、今後ますます複雑になり、深刻の度を加へてゆくであらう。

言ふまでもなく、第一線に聖戦をつゞける皇軍將士は、死を賭して國家民族の歴史的大理想を内外に實現し新大陣日本を建設しやうとしてゐる偉大なわれわれの代表であり、前線である。中にも、不幸敵弾に斃れ、又、戦傷を負つた勇士達こそ、その尊い生命を、肉體を、國家民族發展の礎として捧げた、最も偉大な犠牲者であると言はねばならぬ。われわれは、これらの尊い犠牲者代表並にその遺族家族に對して出来る限りの後援を捧げよう。

次に、この催しは果に一週間に限られた行軍ではない。實にこの運動こそ、國內に新しい道徳觀をもちたせよと云ふ軍大なる意味をもつた一大精神運動でもあるのである。

たとへば、皇軍將士の死をわが死と

その傷をわが傷とし、遺族家族の不自由をわが不自由とする精神、考へ方が、國民各層にはつきり滲みこむことによつて、初めて自覺した國家民族の強い結びつきがなされるであらう。又、遺族家族に對する勤勞奉仕運動も恒久的な組織があるやうな地区に出来れば、隣保相扶の新しい道徳も突かれるわけである。

皇軍將士への感謝を通じて爲される、國民のその努力こそ、死を賭して戦ふやうな、われらの戦士に酬る所以であり、國民一致協力歴史的大事業をたぐひぬく所以なのである。

われわれはこの點をよく辨へ、皇軍將士に對する熱烈な感謝の念と、時局に對する深い認識をもつて、銃後後援強化週間に参加しなければならぬ。

銃後後援強化週間は、大體左の如き要綱をもつて行はれる。



◎ 白衣の勇士をみんなて心から慰問しよう

急激の如く降り来る敵弾、鼻をつく砲煙、突撃だつたつとも又戦場の夢から覺めた白衣の勇士が動かぬ脚を挫いで、痛む腕をさすつて不幸な現実をたぐひ無金の涙を呑みこんだとき、純心の慰問者がたぐひやかに訪れてきてくれたらどうだらう。お痛みはどう、御氣分は、さあマンドリンのお稽古をはじめませう、わたしは小説のつづきを讀んであげませう、やさしい乙女の真心に傷む勇士の心もきつと融けて、雙一面の顔も笑ひに刷ればじめよう。

(臨時東京第一陸軍病院にて)

◎ 自分の家族や友人が入院してゐる場合は勿論のこと、暇があれば見知らぬ不幸な勇士をもベツトに見舞つてあげよう。勇士たちはどんなに喜ぶことか。

(臨時東京第一陸軍病院にて)

撮影 内閣情報部

國を護つた傷兵護れ



皇軍將士の死をわが死と、その傷をわが傷とし、遺族家族の不自由をわが不自由とする精神、考へ方が、國民各層にはつきり滲みこむことによつて、初めて自覺した國家民族の強い結びつきがなされるであらう。又、遺族家族に對する勤勞奉仕運動も恒久的な組織があるやうな地区に出来れば、隣保相扶の新しい道徳も突かれるわけである。

皇軍將士への感謝を通じて爲される、國民のその努力こそ、死を賭して戦ふやうな、われらの戦士に酬る所以であり、國民一致協力歴史的大事業をたぐひぬく所以なのである。

われわれはこの點をよく辨へ、皇軍將士に對する熱烈な感謝の念と、時局に對する深い認識をもつて、銃後後援強化週間に参加しなければならぬ。

銃後後援強化週間は、大體左の如き要綱をもつて行はれる。



◎ 勇士の傷は大部癒えた、松葉杖に縋つて歩くにも馴れてきた。腕も吊らすにすむやうになつた。戦友をいたはりあひながら秋晴れの庭に出ると、兵隊さん、といつもの慰問者が馳けよつてきた。お花持つてきたの。「これはあたしの畫いた繪」「お花持つてきたの、あつ、こりやわしの顔ぢやないか」「わつはつは、わつはつは」

勇士たちの微笑と、少女の可憐な笑聲が、紺碧の秋空にもつれあひながら消えて行く。

(臨時東京第一陸軍病院にて)

◎ 勇士のために勤勞奉仕を

神奈川県下に臨時東京第三陸軍病院が開設されたとき、あたりはたゞ荒蕪の松林、病院の庭もわづかに松の根方が張り起されただけの殺風景なものだつた。が、今ではどの庭にも美しい花壇が設けられ、千々の秋草が無聊に苦しむ勇士たちを慰めてゐる。これらは皆男女學生、青年團等の勤勞奉仕で出来たのだ。手足を泥に汗びつしよりになつて今日、奉仕の花壇作りにも働く女學生たちに兵隊さんたちはたぐひありがたうの瞳を投げる。

生きよ希望に 第二の報國

○ 勇士の傷がやうやく癒えてくると、主として臨時東京第三陸軍病院で十分な療養法が施され、職業準備教育が授けられ(本誌第二十二号参照)いよいよ輝かしい退院の日が近づけば、傷か保護院、職業紹介所、府縣が白衣の勇士たちの職業斡旋に應じる。負傷の程度、いひかへれば、残存機能に應じて原職に復しうるものには原職に復しうる職業を與へてやらねばならない。

○ 身性の自由を缺く傷痍軍人が職業報國にどうして行かぬか、これは、どうしても雇傭者の理解と協力が必要だ。祖國のため、戦後の復興に對し、われら戦後にあるものは今こそ盡しうるだけのことを盡さねばならぬ。脚の傷は癒つた、本人も元氣だ、腰かけて働く仕事ならば出来るたらう。ちや私の工場で働いて働きませう。かくて傷兵も職業斡旋者も、雇傭者も朗かな笑ひの中に話が決まる。

○ 病院に來た序でに、既に原傷契約済みの傷兵たちを面會所に呼んで、「どうして予體の具合は、退院はいつです」ととコトヒを啖り合ひながら未來の職工さんたちを慰め、元氣づける、かうした行きといふ勞はりの心があつてこそ傷兵の未來は明るく産業報國の精神も生きる。

○ いよいよ、就職する前に一通り工場を見學する。これはミリング作業です。ネジはからいふ風に切つて行くのです。と懇切な説明をきいて行くうちにこれならやれるぞ、と傷兵にも自信がわく。

輝く戦傷 明るき心

○ 大場鎮の攻撃に右中指、薬指、小指に貫通銃創をうけたが、現在、東京市蒲田區の某製作所でクロノメーターの部分品のネジ切り作業に従事する陸軍歩兵一等兵伊藤幸吉君(二六)。原職は時計の修繕工であつたから、それよりもいくらか楽な現在の職場が最も適當してゐる。上

○ 事變勃發の當日永定河の敵前渡河に、左手銃部貫通銃創、右手骨折貫通銃創をうけたが、現在、陸軍陸科士官學校事務室に鐵筆を操る陸軍歩兵軍曹小笠原清三君(二四)。中

○ 南京陥落の日、西山攻撃中、幸右膝關節に砲彈破片の貫通銃創をうけたが、現在東京市目黒區の某計器會社でメーター組立作業に従事する陸軍歩兵一等兵藤原司君(二二)。原職がラヂオ廠であり、腰かけて仕事の出る點でも今の職業が最も適當なわけである。下



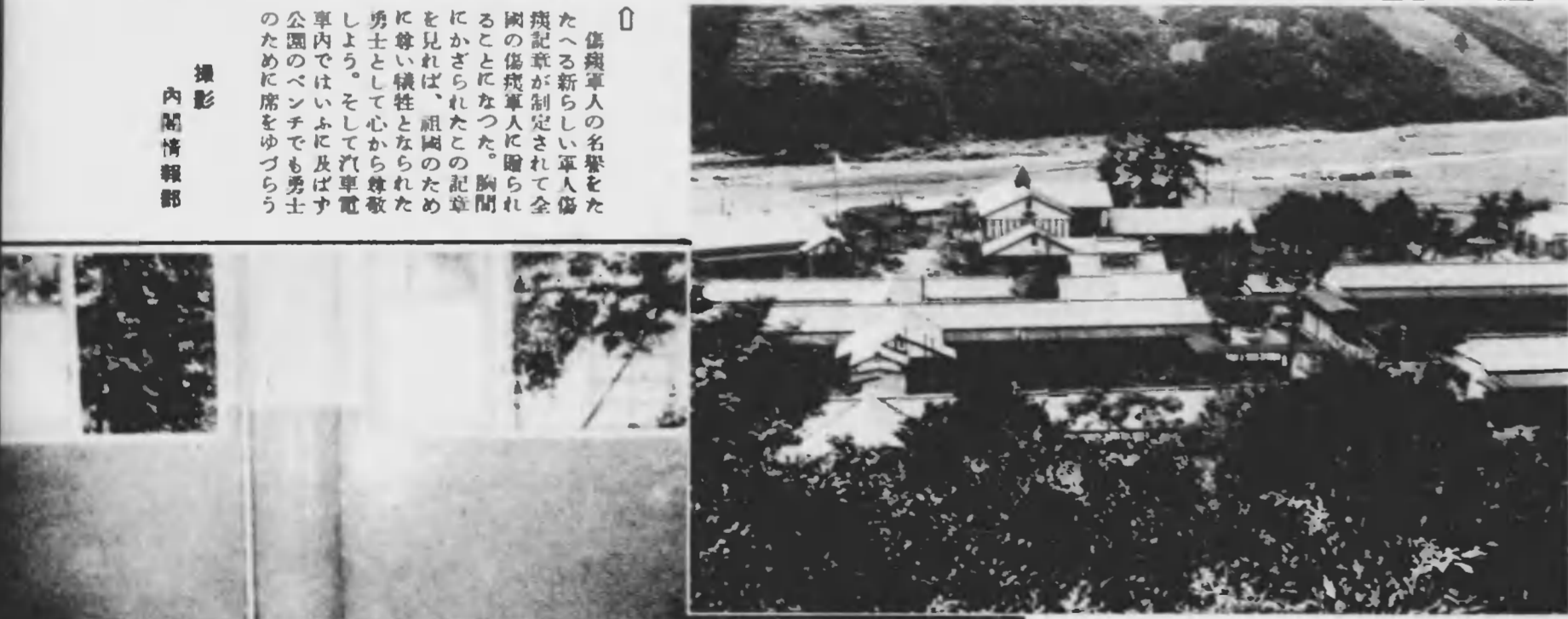


再起奉公
輝く日本

祖國のために腕を失ひ、脚を失つた傷痍軍人も、立派に一人前の仕事が出来、日常生活にも不自由のないやうにと、技術日本はその全能力をあげて精巧な義手義足の製作に従事してゐる。殊に義手はその作業の種類に従つて種々な工夫が凝らされ、耕作、ミシン掛け、釘引き、その他大抵の作業は出来るやうになつてゐる。

ここに掲げたものはその著しい例で、陸軍航空兵隊尉高山作次氏は三年前戦傷のため左手を失ひ、技術日本は氏のために優秀な義手を提供、今夏再び航空兵として更生、現在は義手によつて操縦桿を握り、立派に愛機を操縦して、○○基地から連日の如く敵地爆撃行に參加してゐる。

下は操縦桿を握る義手



傷痍軍人の名譽をたへる新しい軍人傷痍記章が制定されて全國の傷痍軍人に贈られることになつた。胸間にかざられたこの記章を見れば、祖國のために尊い犠牲となられた勇士として心から尊敬しよう。そして汽車電車内ではいふに及ばず公園のベンチでも勇士のために席をゆづらう

撮影 内閣情報部



傷兵院

傷兵を再び立派な社會人として職業戦線に立たせるために凡ゆる施設が講じられてゐるが、負傷の程度が重く、職業に就けず、又經濟的にもぐまれない勇士たちのためには、傷兵院が設けられてゐる。

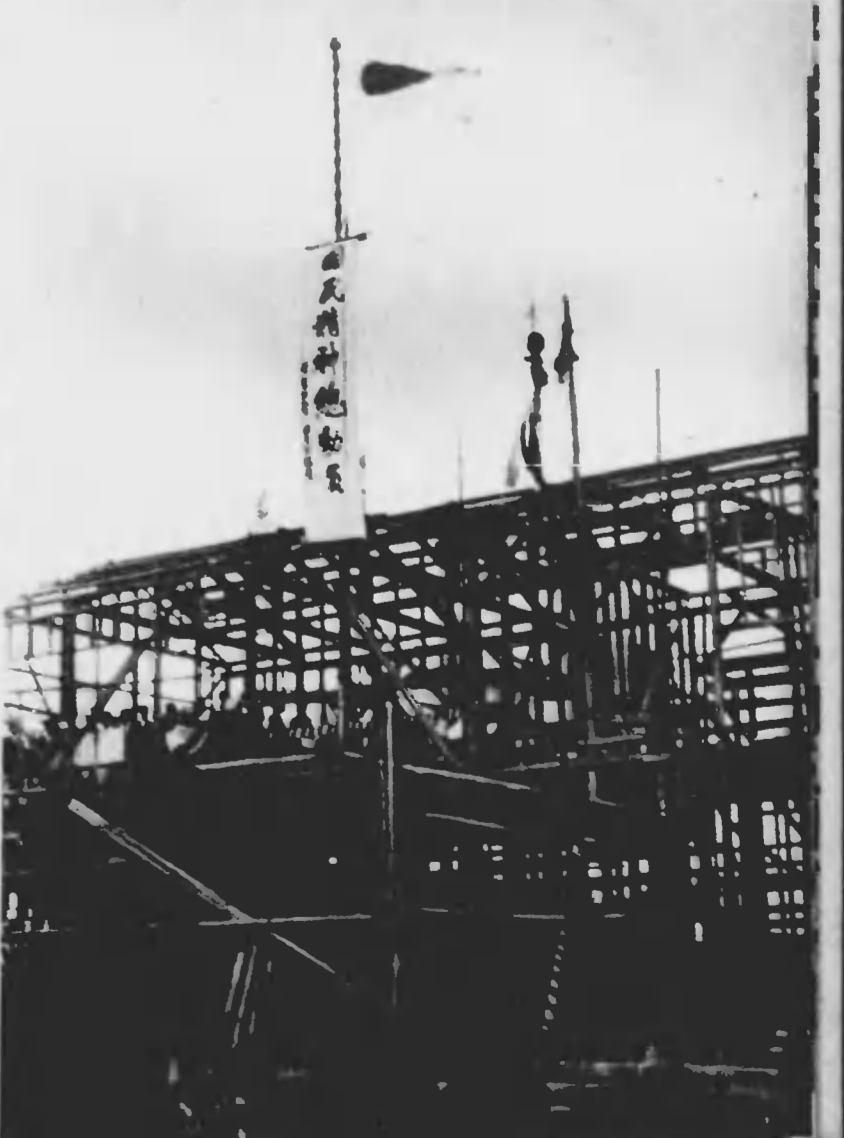
傷兵院は神奈川県小田原町に近い風光明媚な、而も温泉の豊富に湧き出でる地を選んで建設され、不幸な勇士のために衣食住を保護する平和な安眠所として出来る強りの設備が施されてゐる。

映畫「暁れ傷兵」から

傷痍軍人
千葉療養所

傷兵保護院では傷兵保護対策の一つとして、千葉療養所を開設した。この療養所は千葉縣千葉市にそのトツプを切つて九月六日上棟式を挙げて了。傷痍軍人千葉療養所だ。

又、傷兵保護院では千葉療養所開設に先立ち、八月下旬看護婦が、千葉縣下から募集した對して二百名を越える乙女たちが應募し、「私の家は姉妹ばかりです。どうか私に白女の勇士を看護させて下さい」と兄さんも弟もいまだに應召が出来ません。せめて私を御國の御役に立たせて下さい」と夫々熱誠あふれる應募願ひに審査の係官を感涙させた。





又、船など着けるものは、ブリキ桶に
多量に入れます。船の肉づて右は、軍
用、左は、海軍、海軍は、厚い板を使い
たい種で重量にからめさせ。

ふるさとに茶は代りぬらから
無事に存すと胸をよき描く
スケッチの秋、ふるさとに衣がある
に暮してゐる自分の家族だ、と解つた時
兵隊さんの悦びと安心はどんなでせう
この瞬間、ああ、お母さんと思はず叫
ぶに違ひない、兵隊さんの感激が溢れ
ます。



「一桶の汁よく土氣を蒸らすといふ
名ばかりの、泥水の味噌汁さへ何よりの
珍味と言ふ前線、食はず、飲まず、然も
わが兵隊は征く！ またまだ前線に物は缺
乏してゐるのだ、銃後から、もつと、もつ
と、兵隊の糧を運ばせよう。」(陸軍省通信部
食料)

撮影 内閣情報部



ずかずかの問慰てめこを心

「本間もる陽さし。白木桶の袋の山に、
そこはかとなく溢みる、祖國の秋。
その心、母なる情、
その一つ一つに生きて、
けふもはるかなる戦ひの地と、
強くむすぶ民族のきずな。
(陸軍省通信部食料)

「本間もる陽さし。白木桶の袋の山に、
そこはかとなく溢みる、祖國の秋。
その心、母なる情、
その一つ一つに生きて、
けふもはるかなる戦ひの地と、
強くむすぶ民族のきずな。
(陸軍省通信部食料)



「泉軍の先頭立つて、快速、敵陣に突入
してゆく「陸の猛牛」わが戦軍隊に、は
るばる慰問の手紙がとどけられました。
その一字一句に胸をおどらし、悦びを爆
発させてゐるのを御覧下さい。さあ
どしどし前線へ送りませう。
慰問袋を、

慰問袋の針をとり、ふと口すむ顔の眼
思へば、こそこの秋祭り、われと踊りし若者も
君の御福に召されけり、われと踊りし若者も
ゆけ、ものふの悦もて、
さもあれ、ついでがなれかし、
再びめぐる秋に、
大和乙女のはこりこめ、友と誠の針はこぶ。



自分の田の稲刈りよりも
應召家族の稲刈りが先で
なくては、と甲斐々々し
く女子青年團は出勤する。



ほまれの家を 護りませう

勇士の残した父母・妻子、全日本のほまれ高い
應召者遺族家族は今安らかにその日くを送つて
ある。
大陸戦線の將士には絶対に後顧の憂ひをかけさ
せまい應召者遺族家族は美しい隣保相扶の精神
でしつかり護らう。
今こゝに見る報道写真、農村と都會のさま
ざまな銃後後援の姿にこそ、日本のほんとうに根
強い力が發見され、澎湃として全國に漲ることの力
こそ、前線將士の力強い推進力でなくてはであら
う。

撮影 内閣情報部



千葉縣小見川町の銃後活躍の例をとる
と、應召家族の田はこの春、全町か
ら成る勤勞奉仕班によつて田植えをおは
つたが、水害にもめげず房々ともみつた
稲は又奉仕班の手で收穫された。そのあ
とでは遊された兵士の妻を勵ましつゝ其
同耕耘が始まる。

應召家族の生産力は絶
對に減退させまい。
水郷の稲運搬奉仕にも
銃後後援の力強い姿があ
る。

「まあ、一服しておくれ」と、茶をもつ
て出た應召兵士の老父をとりまく青年と
娘たち。野良に見る美はしい種ひのひと
とき、前線の息子を偲んで職談の話はは
すみ、今稻かけをしたばかりの新米は秋
の陽ざしに照り映える。





とといふ有様であつたがこれではならないと村の有識者は真剣に全村更生ののりだし、深くましい努力の末、今では立派に村の負債も返済し見ごとに立ち上つた。

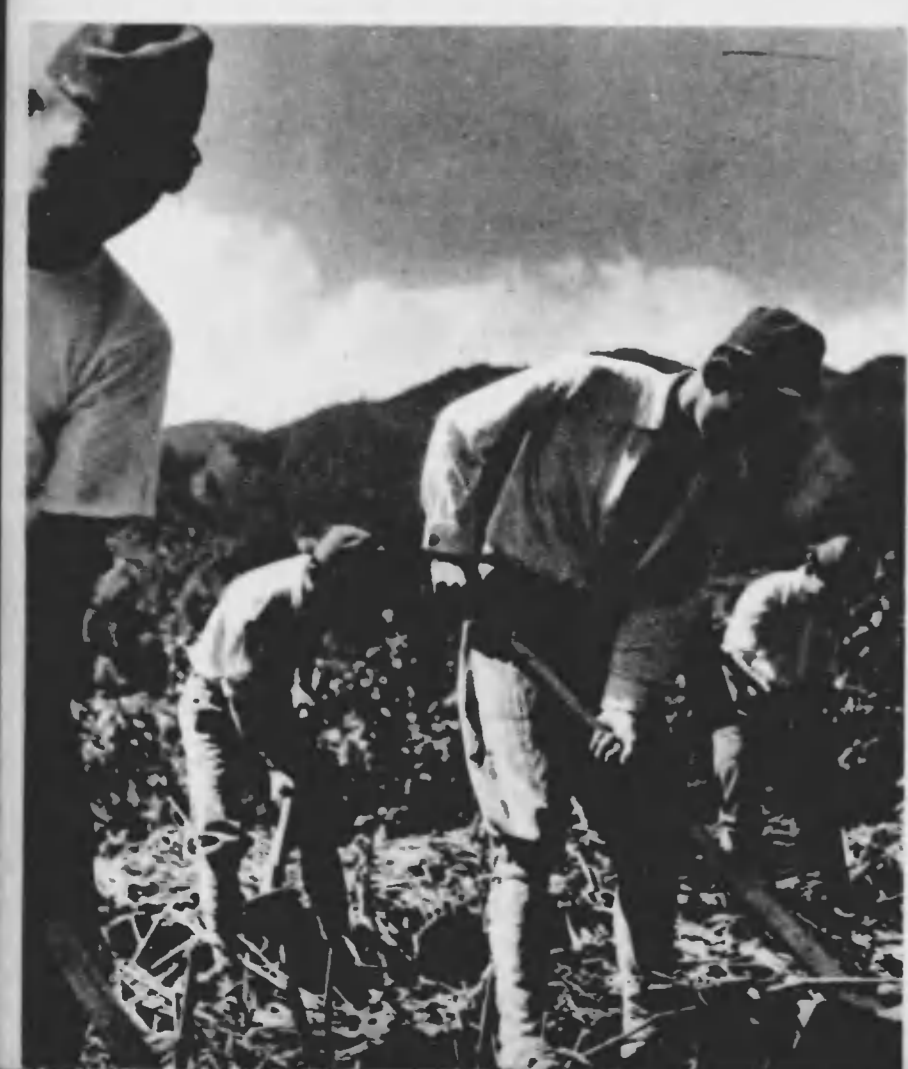
勤労奉仕は昨年十月一日結成された。全村民は時局をよく理解認識し村の座談會や合の度如何にして戦線に征つた壯丁による努力不足を克服し、生産力を確保してゆくかといふ問題が熱心に研究され、戦後の護りを固くしてゐる。

↑ 神奈川県秋野村の例、この村は過去数年の廣嶺暴落の嵐で一時村の財政は全く破綻に瀕し、税金の滞納など當然のこと

↓ 農学校の少年たちもモンペに傾をかつき堆肥つみかへに出動する。作業がすんだ生徒たちを見送る兵士の父母、後には出征軍人の酒札が二つ、名譽ある勇士を二人も出してゐるのだ。

↑ 今日の手奉仕はひる一時から出征軍人甲の家だと部落の連絡員が勤労奉仕隊員に指令する、共同の稲こき機が應召者家族の庭にはこぼれ、山とつまされた新稲はたちまち脱穀されてゆく。

↓ 日の丸に赤く勤労奉仕と染めぬいた手ぬぐひをキリとして、とりいれた應召者家族の稲をはこぶ。努力不足など何言ふものぞ。



生活は合理化し、すべての無駄は省かねばならぬ。組織化された勤労奉仕隊の手でハウキモロコシがかりとられると、その後にはすぐソバの種子があられる。

↑ 應召者遺族家族の畑に鎌をふるふ乙女の姿、額にやどる汗にも、戦後國民の尊い責務が光る……

撮影 内閣情報部





浴場組合もすんで遺者遺族家族を優待するところがある。半額乃至無料の一日の汗を流す勇士の妻と子。



出征御家族無料調髪所

貧しい遺者遺族家族を、指定病院は無料診療で迎へる。無料産院で安らかに勇士の赤ちゃんと分産した若い母に、看護婦が夫の戦地便りを代讀する。――生れたのが男の子だつたら名前は勝一とつけてくれ。――血の氣をとりのどし、明るく笑ふ新しい母の顔を見よ。

撮影 内閣情報部



官民一致の戦後の護りあるトコヤさんは出征者の家族の無料調髪をしてゐる。



戦後復讐には国民の理解と共に、法のあたいかい手がさしのべられてゐる。わが父を、兄を、夫を、戦線に送つた遺族家族でその日から生活に困るやうな母や妻や子らはすべて軍事扶助委員会登録され毎月適宜な扶助金が交付される。



全国各地には遺族家族のための相談所があるが、なほ積極的に親身になつて貧困な遺族家族を訪ね、何れとなく世話をやいてくれるのは方面委員だ。

授産場では遺族家族に手がなる職業講習をし、少しでも家計にゆとりをつけるやう取計らつてゐる。母が職業訓練に働く時、年のゆかない子供らは託児所でオヤツと繪本がむかへてくれる。



海の彼方

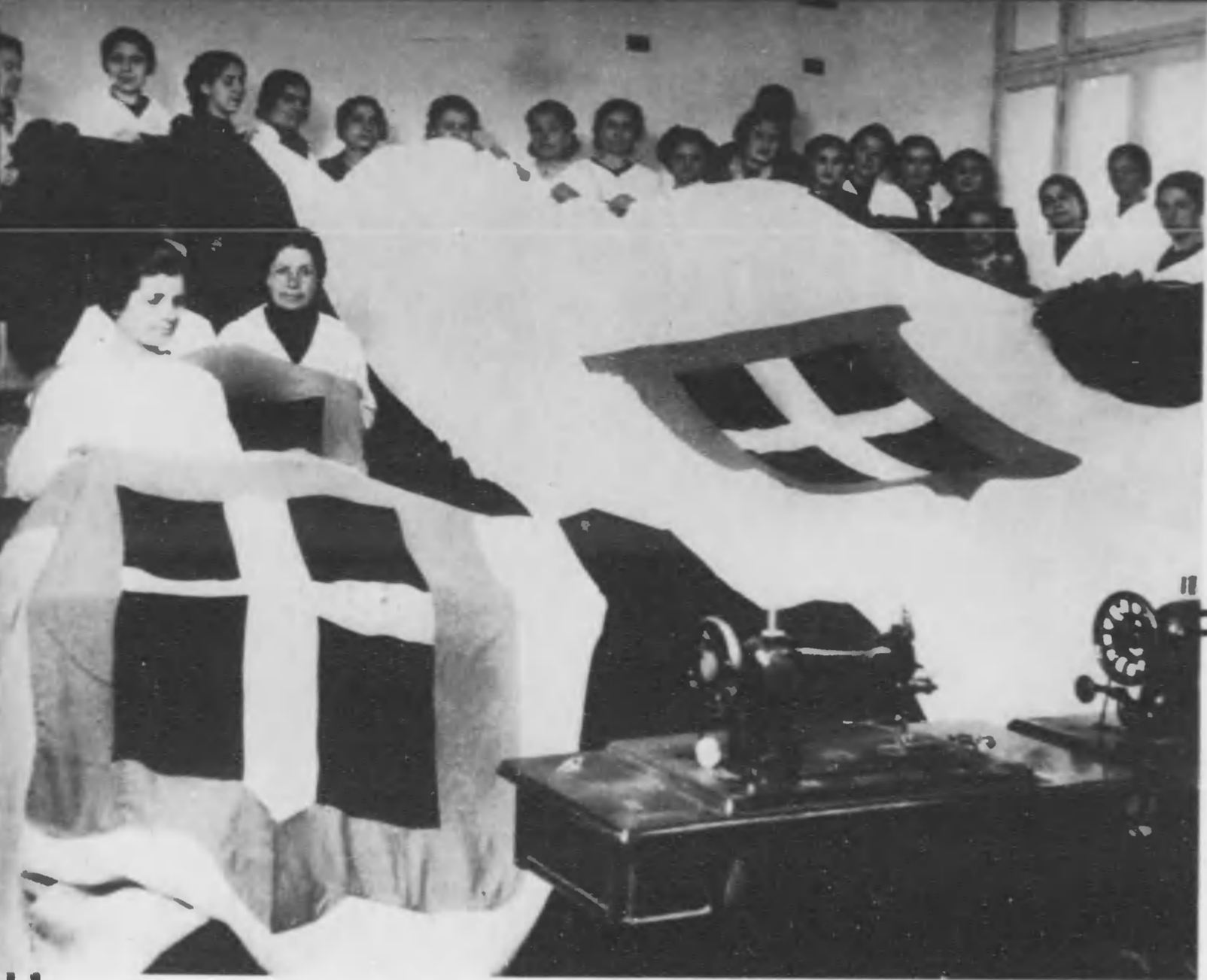
ドイツのシーメンス会社では、その工場に数万人の職工中千数百人の傷痍軍人を使用して、うち全首者が五十人もゐて電話機製作に従事してゐる。その労働には、勿論全首者四、五人につき一人の助手があるが、大體婦人の熟練工と同様の能力をもち、その程度の収入を得てゐる。全首者は毎朝出勤するときは婦人子供に手を曳かれ、又は首座に導かれて来るが、電車に乗るときなどは、傷痍軍人の腕を付けてゐるので人々が助け合つて乗せてくれる。



ローマの犠牲軍人遺族授産所。こゝには二十歳前後の年若い婦人等、四十、五十の未亡人が多数働き、何れも規律正しく、元氣よく縫製してゐる。その日給は極く僅かながら五ひに成り、合つてイタリア婦人の模範たるべく厳格に、而も満足して働いてゐる。

獨伊の傷痍軍人保護施設

大日本傷痍軍人会副会長 陸軍中將 瀧 穆



ローマの傷痍軍人会館。イタリアが、祖國のために犠牲となつた軍人のために建設した傷痍軍人会館には傷兵保護院、戦争犠牲者協会、寡婦孤兒會、未成年孤兒會の本館がある。この落成式にはエマヌエーレ一世陛下もムツワリニ首相とともに臨席された。

かの歐洲大戦に幾多の犠牲者を出した歐洲各國、殊にドイツ、イタリアでは傷痍軍人及び遺族について如何なる政策を講じてゐるであらうか。

歐洲大戦後の極度の疲弊状態から今日の隆々たる國力を養ふまでには、物的にも人的にもその資源の凡てを總動員しなければならなかつたドイツでは、傷痍軍人に対しても一般民衆と同様に働くことを要求し「傷痍軍人はその受けたる傷害程度の如何を問はず完全なる肉體上の能力を回復させる」といふのが傷痍軍人保護政策の根本方針となつてゐる。實際、數千萬の傷痍軍人が働くか否かは、ドイツの經濟的復興に如何に重要な問題であつたかを示してゐる語である。

傷痍軍人の保護施設は二つの系統に分れ、大戦の際の傷痍軍人に対しては労働省職業部で、市に係員を置いて職業を與へ、平時に出来た傷痍軍人に対しては陸軍の諸學校、工場で再教育を行つて職業を授けてゐる。

傷痍軍人の團體としては戦争犠牲者保護協會があり、傷痍軍人、遺族、寡婦、孤兒についてはナチス黨員が中堅となつて職業の斡旋指導、人事相談等凡ゆる事業を行つてゐる。會員は戦死者百五十萬人、遺族二百五十萬人、計四百五十萬人に上つてゐる。要するにドイツに於ける犠牲者保護の特長は、労働第一主義をとり、遺族、戦死者の産業職に積極的に力を用ひ、相互扶助を強く實行してゐることである。イタリアには現在二十五萬人の傷痍軍人がゐるが、大戦後の個人



主義を打破して全體主義による大イタリー王國建設に邁進して來た同國では、傷痍軍人を國民精神總動員運動の先頭に立て「國家及び社會は傷痍軍人、遺族に對し十分なる尊敬と名譽を與へ、可能なる範圍で物質的保護を與へる。須く傷痍軍人、遺族は義勇公の精神をもち、民族精神復興の第一線に立つべし」とを以て國家の方針としてゐる。全體主義を樹立するためには犠牲的精神を醸成しなければならぬが、傷痍軍人及び遺族は犠牲の最も大なるものを擲つてゐるのであるから、これを尊敬保護して名譽を與へ、民族統一のため犠牲的精神の第一線に立たしめてゐるのである。

保護施設としては傷兵保護院、戦争犠牲者協會、寡婦孤兒會（成年に達したものは未成年孤兒會が）あり、直接ムツワリニが指導し

傷兵保護院は政府の機關で本院をローマに、支部を各州におき、恩給の支給、職業再教育、義手義足の支給、療養、人事相談などを主な事業とし、殊に全首軍人に対しては根本的の教育を行つてゐる。戦争犠牲者協會は大日本傷痍軍人会と同様のもので傷痍軍人及び遺族の保護施設について意見を政府に具申し、傷痍軍人遺族の生活の援助につとめ、人事相談に應じてゐる。又寡婦孤兒會では遺族の精神復興及び生活保護のために資本家から資金を得て、授産所を全國數ヶ所に設け、その製品を陸軍、鐵道等に供給してゐる。イタリアの指導方針は傷痍軍人及び遺族を民族精神復興の先頭に立たせるにあつて、名譽を第一とし、遺族保護に主として意を用ひてゐる。



(3) 譜画謡歌民國

朝

定撰會篇送款本日



撮影 菊池 豊三郎

一、朝はふたたびこゝにあり
 朝はわかれと共にも
 望れよ 望れよ 望れよ
 望れよ 望れよ 望れよ

二、朝野うらぶる朝は
 朝の朝を吹き鳴らし
 けよ 命の朝の朝の
 よそほひせよと叫ぶかき

三、野に遊てよ野に遊てよ
 野の朝は朝に本のりたり
 朝とく給へ朝も朝も
 朝に朝も朝も朝も

朝 (三線子の歌)

島崎藤村作詞
小田海客作曲

力強く武風に



移動労働者作業

清原二男

潮の如く全国的に高まる
労働者運動は東京の隅々
隅々にも早く動き起され
たが、首里市の臨時師範学校
では一日一里から五里に及
ぶ移動労働者作業を行ひ
表天下南無難の気持は夏
運とその高きを説くものが
あつた。

読者のカメラ



軍馬の入營

中村安

南部地方は有名な産馬地
で北支、中支に剛かしい戦
功を立ててゐる軍馬にも南
部馬が非常に多い。家族の
一員として大事に育て上げ
た馬が軍馬として採用され
た時の飼主の喜びは非常な
ものであつた。あつてもこら
でも馬を送る訣別のうらは
しい姿が見られる。

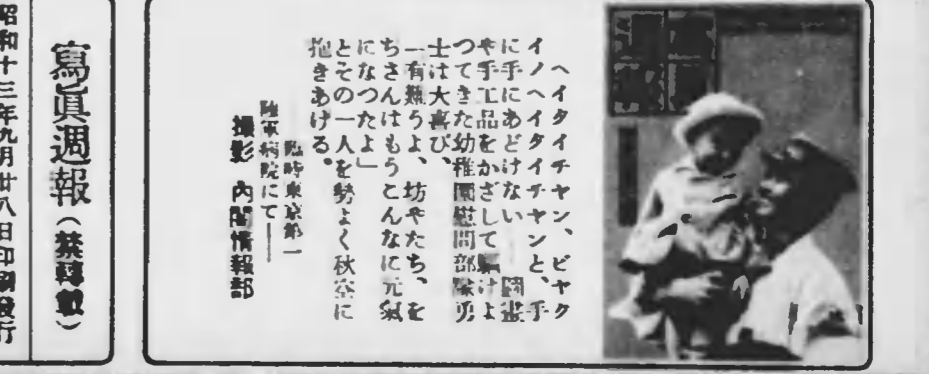


国防競技

高岡市元町

事變下日本の運動會は時局の線
に沿ふべしとて、高岡市青年団は
九月十日秋祭大祭には一切の餘興
を廃し国防競技大会を行いました
我等の郷里から出征した勇士が、
クリートを運ぶ山陰を築く上、苦
もかくやとばかり思ひつゝ、心身
鍛錬に精進する北陸健児の健後の
姿を御覧下さい。

寫眞募集規定
本誌は「寫眞週報」の一助にも
考へ、出来る限り紙面を開放し撰者
のカメラを動員、優秀な技術を持つ
てゐる。題材は内外戦争、國策の宣
傳に關するものならは何でもよい。
例へば何れも田園にも、或は工場、
家庭、學校など所々所々を散らす
習ひ、國民精神、或は手
部と並列の面白い組合せなどはどう
でもよい。一枚の寫眞でも、幾枚でも
の紙面でもよく印刷用紙は決定さ
す。サイズはキヤリ以上、掲載
の分には題名又は記号品を簡易し版
權は本誌に關するものとす。
原稿作品は一切返却せず。
内閣情報部



寫眞週報(兼轉載)

昭和十三年九月廿八日印刷發行

内閣情報部

大日本印刷株式會社

東京市牛込區市谷

加賀町一ノ二番

將士は銃劍我等は債券



支那變事貯蓄債券

賣出期間
十月五日
至
十一月十日



東京五銀行

所 込 申	價 定
寫眞週報配送部 東京市牛込區市谷二一〇番 東京市牛込區市谷二一〇番 東京市牛込區市谷二一〇番 東京市牛込區市谷二一〇番	一 部 十 錢 一 年 (共) 四 百 八 十 錢 (外埠別送料別)
全國各地官報販賣所 東都書籍株式會社 最寄書店・購買所 各地新聞販賣所 寫眞材料店	一ヶ年分未滿配送御希望の方は一割十錢の割合を以て前金を込へ御申込下さい

疲れ易い人にすゝむ！

赤玉ポトワインを飲む。類る旨く、甘い。この甘味、たゞの砂糖で味を着けたのではない。主成分たる葡萄糖、果糖の天然の甘味である。これが疲労回復に頗る良い。即ちこの糖類は、胃袋に少しも手数をかけず直ちに腸壁から吸収される。吸収されて血中に入るとその儘、エネルギー源となつて萬遍なく体内に行きまゐる。新陳代謝の機能が活潑になる。溜つてゐた疲労素が追出され、新しい活動力が迅速にもり上つて来る。だから恢復は實に速い。そればかりではない。二倍、三倍の激務にも容易に參らなくなる。根氣がグツと續くやうになる。目に見えて能率が上つて来る。



根氣が續く



能率が上がる



朝一夕の

赤玉ポトワイン